

## 第1回委員会における質問・意見に対する事務局回答について

### 《質問》

- ① あがりこサワラについて、松川村史にも施業経緯はないようだが、それ以前の古文書等はどうか。
  
- ② 保護林とレクリエーションの森は原則重複させないとされていることから、その理由を明確にして次回委員会で説明されたい。
  
- ③ 水無湿性植物希少個体群保護林はこのままでは乾燥化が進行し、陸化していく遷移の途上あると考えてよろしいか。

《事務局回答》

① あがりこサワラについて、松川村史にも施業経緯はないようだが、それ以前の古文書等はどうか。

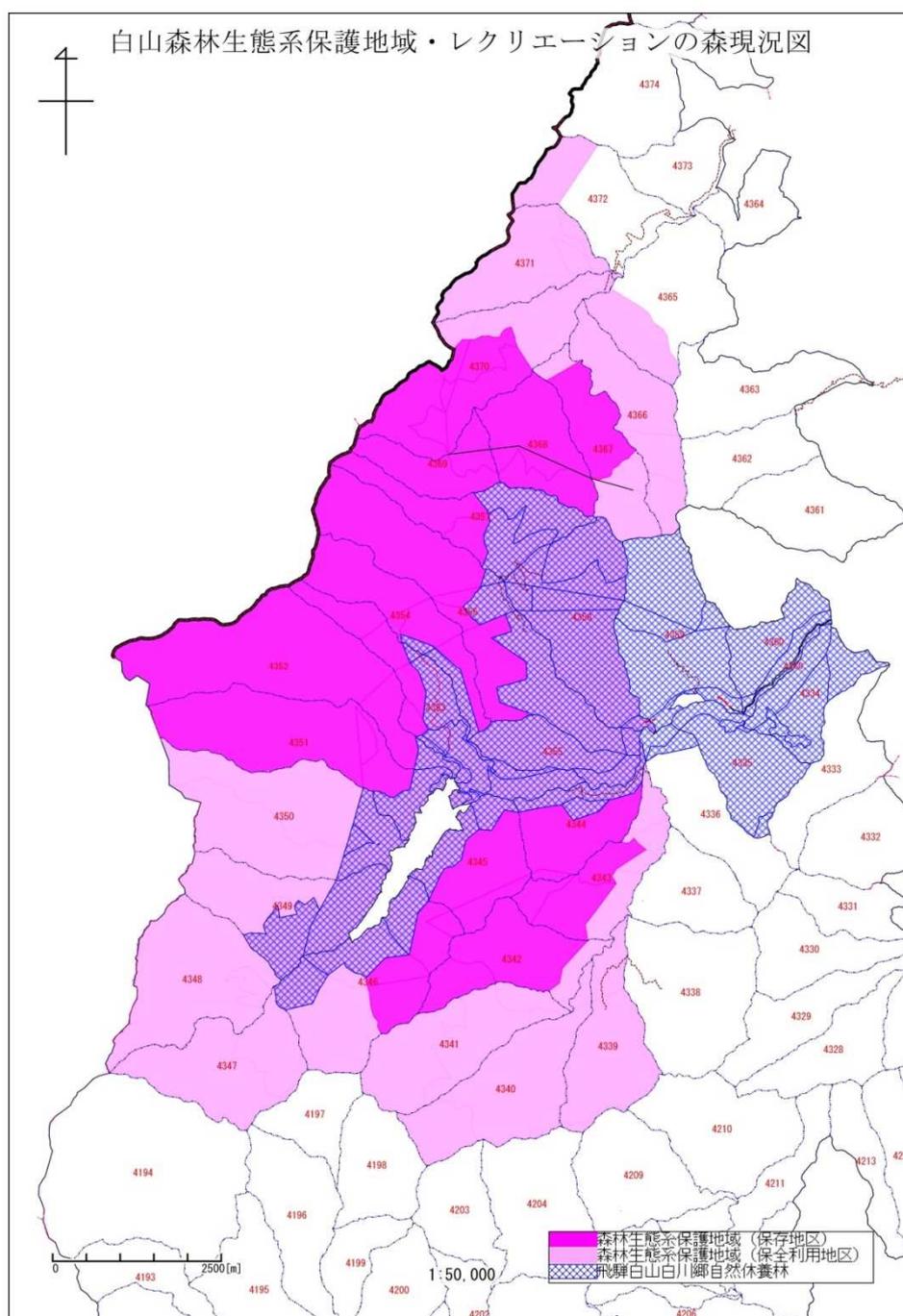
・ 中信森林管理署施業履歴、関連資料等も調査したが施業経緯はわかりませんでした。

今年度モニタリング調査を追加発注し、松川村等で古文書の文献調査を行います。

施業経緯等の時期を特定するため、萌芽した樹幹の年輪計測を実施します。

② 保護林とレクリエーションの森は原則重複させないとされていることから、その理由を明確にして次回委員会で説明されたい。

- 今年度林野庁の事業としてスタートした観光資源の創出事業「日本美しい森 お薦め国有林」に当該地が選定されたこともあり、地元自治体としてレクリエーションの森の積極的活用について、客誘致のためのPR活動を展開することとしています。



③ 水無湿性植物希少個体群保護林はこのままでは乾燥化が進行し、陸化していく遷移の途上あると考えてよろしいか。

- ・ 今後に向けて大々的に手を加える予定はない。NPO 法人利賀飛翔の会等の湿原整備等については（階段工・ヤナギの伐採等）経過を見守りたい。

保護林再編(案)29年度分

2017.09.12

資料2

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
中部山岳	30	北アルプス金木戸川・高瀬川源流部森林生態系保護地域(保存地区)	1,598.47	森林生態系保護地域			保 国特1	30	北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域(保存地区)	1,598.47	10 30
	31	北アルプス金木戸川・高瀬川源流部森林生態系保護地域(保全利用地区)	2,048.59	森林生態系保護地域			保 国特1		北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域(保全利用地区)	2,048.59	
	32	風吹スギ林木遺伝資源保存林	11.26	アーク希少個体群保護林		平成3年設定。スギ天然林 昭和56年風吹スギ天然林学術参考保護林として設定。我が国有数の豪雪地帯に生育するスギ天然林を保護・管理する必要がある。	保	32	風吹スギ遺伝資源希少個体群保護林	11.26	10 30
	33	鹿島ヒノキ等林木遺伝資源保存林	10.94	アーク希少個体群保護林		平成2年設定。天然ヒノキ 我が国のヒノキ分布の北限としての希少な天然林。ヒノキを主体とし、クロベ、ミズナラ、ブナの混交する天然林を保護・管理する必要がある。	保	33	鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林	10.94	10 30
	34	湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ等林木遺伝資源保存林	63.76	アーク希少個体群保護林	有可	平成3年設定。天然カラマツ、キタゴヨウマツ 昭和46湯俣カラマツ天然林学術参考保護林設定。昭和56年湯俣ヒメコマツ天然林学術参考設定。カラマツ、キタゴヨウマツ、コマツガの大群落を保護・管理する必要がある。	保 国特2・3	34	湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ遺伝資源希少個体群保護林	63.76	10 30
	35	上高地ケシウヤナギ等林木遺伝資源保存林	8.43	アーク希少個体群保護林	有可	平成3年設定。ケシウヤナギ 昭和3年に我が国で最初に発見されたケシウヤナギをヤマハンノキとともに保護・管理する必要がある。	保 国特 特史名天	35	上高地ケシウヤナギ希少個体群保護林	50.90	10 30
	36	上高地ケシウヤナギ植物群落保護林	42.47	アーク希少個体群保護林	有可	平成24年設定。ケシウヤナギ 希少なケシウヤナギの群落及びケシウヤナギの更新可能な氾濫原となる砂礫地を保護・管理する必要がある。	保 国特 特史名天				
	37	雨飾・天狗原山植物群落保護林	1,565.06	イークーク植物群落保護林		平成3年設定。ミヤマナラ、コマツガ等 昭和56年に雨飾山風致保護林を設定。我が国有数の豪雪地帯である雨飾山、天狗原山周辺のミヤマナラ、コマツガ等を保護・管理する必要がある。	保 国特1・2・3	37	雨飾・天狗原山生物群集保護林	1,565.06	10 30
	38	白馬岳高山植物群落保護林	1,281.19	イークーク植物群落保護林	有可	平成3年設定。高山植物群落 昭和27年白馬岳山頂付近高山植物帯を天然記念物に指定。高山植物が豊富な植物群落を保護・管理する必要がある。隣接する北アルプス(朝日・白馬連山)生物群集保護林(4,794.33ha)と統合する。(6,075.52ha)	保 国特保・史名特天(白馬)	38	北アルプス(朝日・白馬連山)生物群集保護林	1,281.19	10 30
39	白沢天狗山植物群落保護林	606.65	イークーク植物群落保護林	有可	平成3年設定。ブナ、ミズナラ、クロベ、コマツガ等の天然林 針ノ木・爺ヶ岳特地と一部接している、亜高山帯に至るブナ、ミズナラ、クロベ、コマツガ等の天然の森林群落を保護・管理する必要がある。49、50と統合する。	保 国特2	39	北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢天狗)生物群集保護林	606.65	10 30	

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
中部山岳	40	大天井岳植物群落保護林	1,782.69	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成3年設定。高山植物群落 コメツガ、シラビソ、ダケカンバ等から構成される亜高山帯、 ハイマツ等からなる高山帯及び高山植物群落を保護・管理する 必要がある。 常念・蝶ヶ岳特地、槍ヶ岳・穂高特地、と隣接していることか ら、常念・蝶ヶ岳特地(2,223.57ha)、槍ヶ岳・穂高特地 (3,154.89ha)を統合する。(7,161.15ha)	保 国特1 特史名 天	40	北アルプス(蝶ヶ岳・大天井 岳・槍ヶ岳・穂高岳)生物群 集保護林	7,161.15	10 30
	41	槍ヶ岳・穂高特定地理等保護林	3,154.89	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成3年設定。高山植物群落 植物種は70科452種確認されている植物群落を保護・管理する 必要がある。大天井岳植群(1,782.69ha)、常念・蝶ヶ岳特地 (2,223.57ha)を統合し(7,161.15ha)、一体的に保護・管理する 必要がある。	保 国特 特史名天				
	42	常念・蝶ヶ岳特定地理等保護林	2,223.57	イーカークーケ 生物群集保護林	有	平成5年設定。高山植物群落 植物種は希少種を含め101科636種確認されている植物群落 を保護・管理する必要がある。隣接の大天井岳植群(1,782.69 ha)、槍ヶ岳・穂高特地(3,154.89ha)を統合する(7,161.15ha)	保 国特2 特史名 天	43	梓湖希少個体群保護林	302.25	10 30
	43	梓湖植物群落保護林	302.25	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成3年設定ミズナラ、クリ群落、カンバ等の天然林 梓川沿い地域を代表するミズナラ、クリ群落、カンバ等の天然 生広葉樹林群落を保護・管理する必要がある。	保				
	44	鷲羽岳等高山植物群落保護林	1,844.97	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成6年設定。天然カラマツ、キタゴヨウ、コメツガ等 カラマツ、キタゴヨウ、コメツガ等から構成される亜高山帯針 葉樹林を保護・管理する必要がある。高瀬渓谷噴湯丘特地 (39.47ha)を統合し(1,884.44ha)、保護林周囲の類似した548 は、588はを拡充し(1,952.57ha)とし、一体的な保護・管理とす る。	保 国特1				
	45	高瀬渓谷噴湯丘特定地理等保護林	39.47	アウ 希少個体群保護林	有可	平成3年設定。 大正11年に噴湯丘と周辺の林地を天然記念物に指定、植物 種は24科49種が確認されている群落を保護・管理する必要が ある。隣接する鷲羽岳等高山植群(1,844.97ha)と統合し (1,884.44ha)、保護林周囲の類似した548は、588はを拡充し (1,952.57ha)とし、一体的な保護・管理とする。	保 国特1 史名天	46	鷲羽岳・硫黄・高瀬渓谷生 物群集保護林	1,952.57	10 30
	46	梓川・霞沢植物群落保護林	1,522.43	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成3年設定。天然生広葉樹林 梓川沿い周辺のミズナラ、カエデ、トチノキ等から構成される 貴重な天然生広葉樹林の保護・管理する必要がある。隣接する 焼岳特定地理保護林(1,049.81ha)と統合する。(2,572.24 ha)	保 国特1・2				
	47	焼岳特定地理等保護林	1,049.81	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成3年設定。ダケカンバ群落、ブナ群落等 ダケカンバ群落、ブナ群落等を保護・管理する必要がある。植 物種は118科491種が確認されている。隣接する梓川・霞沢植 物群落保護林(1,522.48ha)と統合し一体的な保護・管理とす る。(2,572.24ha)	保 国特2 特史名 天				
	48	硫黄岳特定地理等保護林	597.73	イーカークーケ 生物群集保護林	有可	平成6年設定。ダケカンバ、亜高山性針葉樹 上部にはダケカンバ群落、下部にはコメツガ、シラビソ、オオ シラビソ、クロベ群落が有り保護・管理する必要がある。44、 45と統合する。	保 国特1	48	鷲羽岳・硫黄・高瀬渓谷生 物群集保護林	597.73	10 30

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
中部山岳	49	針ノ木・爺ヶ岳特定地理等保護林	1,293.61	イーカークークエ 生物群集保護林	有 可	平成8年設定。 高山帯はハイマツ群落を形成し、亜高山帯上部はダケカンバ、クロベ、ヒメコマツ群集が有り保護・管理する必要がある。植物種は76科425種確認されている。立山の山崎園谷(56.25ha)、五竜・鹿島槍特地(1,317.22ha)、黒部溪谷特地(7,479.14ha)を含めて(10,146.22ha)、これらを統合する。	保 国特	49	北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢天狗)生物群集保護林	2,610.83	10 30
	50	五竜・鹿島槍ヶ岳特定地理等保護林	1,317.22	イーカークークエ 生物群集保護林	有 可	平成8年設定。 高山帯はハイマツ群落、亜高山帯はダケカンバ、クロベ、ヒメコマツ群落を保護・管理する必要がある。植物種は68科351種確認されている。立山の山崎園谷(56.25ha)、五竜・鹿島槍特地(1,317.22ha)、黒部溪谷特地(7,479.14ha)を含めて(10,146.22ha)を統合する。	保 国特1				
	51	乗鞍三本滝特定地理等保護林	25.19	アーウ 希少個体群保護林		平成3年設定。 乗鞍野外スポーツ林から長野県名勝指定地及びその周辺地域を保護林に区画設定。大小の趣のある滝の特異な地形であるが、観光地的要素の場所であることから施業上の配慮(自然維持タイプ)での管理が望ましい。	保 国特2 県名勝		廃止(施業上の配慮)自然維持タイプを検討	-	
	52	乗鞍岳特定地理等保護林	1,605.84	イーカークークエ 生物群集保護林	有 可	平成19年設定。 下部はシラビソ、オオシラビソ、トウヒ、からなる亜高山帯針葉樹林、上部は高山帯となりハイマツ群集を形成し植物種は114科795種が確認されている植物群落を保護・管理する必要がある。 隣接する飛騨管内の乗鞍特地(394.76ha)、のりくら郷土の森(614.86ha)を統合する。(5512.89ha)	保 国特1・2	52	乗鞍岳生物群集保護林	1,605.84	10 30
	53	安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森	7.28	アーウ 希少個体群保護林		平成24年設定。アガリコサワラ天然ヒノキ、サワラ、コマツガの群落で、あがりこ型樹形を成しているサワラが多く独特の景観を呈している。協定相手方より森林づくり活動の場として要望があり、廃止後は協定の森へ移行。(山地災害防止タイプへ変更)	保		廃止(施業上の配慮)山地災害防止タイプへ変更	-	
中部山岳 集計		中部山岳森林計画区(中信森林管理署)	24,003.77							24,039.43	

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
伊那谷	72	南アルプス南部光岳森林生態系保護地域(保全利用地区)	1,511.03	森林生態系保護地域		規模面積ともに現状でよい。	保 国特3	72	南アルプス(南部光岳)森林生態系保護地域(保全利用地区)	1,511.03	10 32
	73	西岳ヤツガタケトウヒ等林木遺伝資源保存林	5.92	アーウ希少個体群保護林	有可	平成5年再編。ヤツガタケトウヒハケ岳、南アルプスのみに分布するヤツガタケトウヒの純林を保護・管理する必要がある。		73	西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林	32.81	10 29
	74	フウキ沢ヤツガタケトウヒ植物群落保護林	26.89	アーウ希少個体群保護林	有可	平成20年設定。ヤツガタケトウヒ隣接する西岳ヤツガタケトウヒ等林遺(5.92ha)と統合し(32.81ha)、一体的に保護・管理する。	保				
	75	小黒川ウラジロモミ等林木遺伝資源保存林	11.48	アーウ希少個体群保護林		平成5年再編。ウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバ等温帯から亜高山帯への移行帯におけるウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバ等の群集を遺伝資源として保護・管理する必要がある。	保	75	小黒川ウラジロモミ遺伝資源希少個体群保護林	11.48	10 32
	76	大河原イヌブナ等林木遺伝資源保存林	43.93	アーウ希少個体群保護林		平成5年再編。イヌブナ、コメツガ及び広葉樹等イヌブナ、コメツガ及び広葉樹等から構成される天然林となっている。イヌブナを遺伝資源として保護・管理する必要がある。	保	76	大河原イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林	43.93	10 32
	77	ハケ岳高山植物群落保護林	294.68	アーウ希少個体群保護林		平成5年設定。ハケ岳固有の植物ヤツガタケキバナシャクナゲ、ヤツガタケキンボウゲ、ヤツガタケアザミ、ヤツガタケシノフなどハケ岳固有の植物を保護・管理する必要がある。	保 国定特 史名天	77	ハケ岳生物群集保護林	294.68	10 32
	78	ハケ岳縞枯山植物群落保護林	46.85	アーウ希少個体群保護林		平成5年保護林再編。シラビソ群落一帯で帯状立枯現象を示しているシラビソ群落を保護・管理する必要がある。	保 国定特2	78	ハケ岳縞枯山希少個体群保護林	46.85	10 32
	79	西岳カラマツ植物群落保護林	3.50	アーエ廃止(他制度の活用、施業上の配慮)		平成5年保護林再編。カラマツ、シラビソ、モミ等の混交する天然林となっている。面積も小さいことから、施業上の配慮(自然維持タイプ)で対応可能。	保 国定特3		廃止(施業上の配慮)自然維持タイプを検討	-	
	80	七島八島湿原植物群落保護林	63.91	アーウ希少個体群保護林		平成5年保護林再編。霧ヶ峰湿原植物群落天然記念物「霧ヶ峰湿原植物群落」、七島八島風景林を保護・管理する必要がある。	保 国定特2 史名天	80	七島八島湿原希少個体群保護林	63.91	10 32
	81	豊口山シダ植物群落保護林	57.35	アーウ希少個体群保護林		平成5年保護林再編。トヨグチイノデ等特殊な植生であるトヨグチイノデ等のシダ類を保護・管理する必要がある。	保	81	豊口山シダ希少個体群保護林	57.35	10 32
	82	中御所カラマツ植物群落保護林	2.70	アーエ廃止(他制度の活用、施業上の配慮)		平成5年再編。面積も小さいことから、施業上の配慮(自然維持タイプ)で対応可能。	保 県特3 特母		廃止(施業上の配慮)自然維持タイプを検討	-	
	83	神の石シダ植物群落保護林	20.14	アーウ希少個体群保護林		平成5年再編。ヤシャイノデ我が国では2カ所確認されているヤシャイノデの希少個体群を保護・管理する必要がある。	保	83	神の石シダ希少個体群保護林	20.14	10 32

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
伊那谷	84	燕岩植物群落保護林	98.10	アーウ 希少個体群保護林		平成5年設定。水河期遺存植物 タカネコンギク、ナヨシダ、アオチャセンシダ、ミヤマムラサキ 等の貴重な水河期遺存植物を保護・管理する必要がある。	保	84	燕岩希少個体群保護林	98.10	10 32
	85	歌宿シラベ等林木遺伝資源保存林	53.48	アーエ 希少個体群保護林	有 可	平成5年再編。天然カラマツ、シラビソの遺伝資源 昭和63年生物遺伝資源保存林に設定。隣接する千丈岳特 地(2,886.49ha)、尾勝谷植群(287.69ha)を統合し(3,227.66ha)、 一体的に保護・管理する必要がある。	保	85	南アルプス(仙丈岳等)生物 群集保護林	3,227.66	10 32
	86	尾勝谷ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植 物群落保護林	287.69	アーウ 希少個体群保護林	有 可	平成20年設定。ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ 石灰岩層に生育するヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミを保護・管 理する必要がある。隣接する千丈岳特(2,886.49ha)、歌宿 シラベ林遺(53.48ha)を統合し(3,227.66ha)、一体的に保護す る。	保				
	87	仙丈岳特定地理等保護林	2,886.49	イーカークーク 廃止(他制度の活 用、施業上の配 慮)	有 可	平成5年再編。ヒメマツハダ、ヒメバラモミ、ヤツガタケトウヒ 多様な地形を有し、森林帯はシラビソ、コムツガ、トウヒ、カン バ等から構成される天然林を保護・管理する必要がある。植 物種は78科339種確認されている。隣接する尾勝谷ヤツ・ヒメ 植群(287.69ha)、歌宿シラベ林遺(53.48ha)、を統合し (3,227.66ha)、一体的に保護する。	保 国特1・2・3 県3 特				
	88	塩見三峰岳植物群落保護林	4,968.24	イーカークーク 森林生態系保護地 域	有 可	平成5年再編。亜高山性の天然林から、ハイマツ等から構成 される高山性の群落を保護・管理する必要がある。本谷山植 群(237.95ha)と隣接しており統合し(5,206.19ha)、一体的に保 護する。南アBR(核心・緩衝地域)	保 国特1・2・3	88	南アルプス(塩見等)生物群 集保護林	5,206.19	10 32
	89	本谷山植物群落保護林	237.95	アーウ→サーキ 希少個体群保護林	有 可	平成5年再編。天然林 シラビソ、コムツガ、トウヒからなる天然林を保護・管理する必 要がある。隣接する塩見三峰岳植群(4,968.24ha)と統合し (5,206.19ha)、一体的に保護する。	保 国特1・3				
	90	南アルプス赤石岳植物群落保護林	2,038.78	イーカークーク 生物群集保護林	有 可	平成5年保護林再編。亜高山植生 コムツガ、シラビソ、オオシラビソ、ダケカンバ等からなる亜高 山植生の垂直分布を保護・管理する必要がある。隣接する南 アルプス聖岳植群(2,965.76ha)と統合し(5,004.54ha)、一体的 に保護する。	保 国特1・2・3	90	南アルプス(聖岳等)生物群 集保護林	5,004.54	10 32
	91	南アルプス聖岳植物群落保護林	2,965.76	イーカークーク 森林生態系保護地 域	有 可	平成5年再編。亜高山植生 コムツガ、シラビソ、オオシラビソ、ダケカンバ等からなる亜高 山植生を保護・管理する必要がある。隣接する南アルプス赤 石岳植群(2,038.78ha)と統合し(5,004.54ha)、一体的に保護 する。	保 国特2・3				
	92	丸山谷ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植 物群落保護林	51.46	アーウ 希少個体群保護林		平成20年設定。ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ群集を保護・管理する必要がある。	保	92	丸山谷希少個体群保護林	51.46	10 32
93	小瀬戸谷・東風巻谷ヤツガタケトウヒ・ ヒメバラモミ植物群落保護林	122.01	アーウ 希少個体群保護林		平成20年設定。ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ群集を保護・管理する必要がある。	保	93	小瀬戸谷・東風巻谷希少個 体群保護林	122.01	10 32	

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
伊那谷	94	風巻峠ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林	71.15	アーウ 希少個体群保護林		平成20年設定。ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ群集を保護・管理する必要がある。	保	94	風巻峠希少個体群保護林	71.15	10 32
	95	白岩岳カラマツ植物群落保護林	14.14	アーウ 希少個体群保護林	有 可	平成5年再編。天然カラマツが群落赤石山系の天然カラマツ群落を保護・管理する必要がある。隣接する白岩岳特定地理(81.20ha)と統合し(95.34ha)、一体的な保護・管理する必要がある。	保 特母	95	白岩岳カラマツ等希少個体群保護林	95.34	10 32
	96	白岩岳特定地理等保護林	81.20	アーウ 希少個体群保護林	有 可	平成5年再編。ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ石灰岩が露出する一帯に、シラビソ、コメツガ、トウヒ、ヒメコマツ等から構成される天然林を保護・管理する必要がある。植物種は38科86種確認されている。隣接する白岩岳カラマツ植群(14.14ha)と統合し(95.34ha)、一体的に保護する。	保				
	97	巫女淵特定地理等保護林	182.52	アーウ 希少個体群保護林		平成5年再編。ヒメマツハダ、ヒメバラモミ、ヤツガタケトウヒシラビソ、コメツガ、トウヒ等から構成される天然林を保護・管理する必要がある。植物種は50科110種確認されている。	保	97	巫女淵希少個体群保護林	182.52	10 32
	98	中央アルプス駒ヶ岳特定地理等保護林	2,294.59	イーカークーク 生物群集保護林	有 可	平成5年設定。シラビソ、コメツガ、トウヒ、カンバ亜高山性針葉樹等からなる天然林で植物種は44科177種確認されている群落を保護・管理する必要がある。	保 県1・2・3特	98	中央アルプス(駒ヶ岳)生物群集保護林	2,294.59	10 32
伊那谷 集計		伊那谷森林計画区(南信森林管理署)	18,441.94							18,435.74	

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
宮・庄川	114	北アルプス金木戸川・高瀬川源流部森林生態系保護地域(保存地区)	3,869.75	森林生態系保護地域		規模面積共に現状管理でよい。	保 国特1	114	北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域(保存地区)	3,869.75	10 29
	115	北アルプス金木戸川・高瀬川源流部森林生態系保護地域(保全利用地区)	582.58	森林生態系保護地域		規模面積共に現状管理でよい。	保 国特1		北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域(保全利用地区)	582.58	
	116	白山森林生態系保護地域(保存地区)	3,034.84	森林生態系保護地域		規模面積共に現状管理でよい。	保 国特2・3	116	白山森林生態系保護地域(保存地区)	3,034.84	10 29
	117	白山森林生態系保護地域(保全利用地区)	4,729.16	森林生態系保護地域		規模面積共に現状管理でよい。	保 国特2・3		白山森林生態系保護地域(保全利用地区)	4,729.16	
	118	名古屋ダケカンバ5林木遺伝資源保存林	26.46	アーウ 希少個体群保護林		平成2年設定。ダケカンバ 原生的なダケカンバの群生地を保存し、遺伝資源を保護・管理する必要がある。	保 国特2	118	平湯ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林	26.46	10 29
	119	名古屋ヒノキ6林木遺伝資源保存林	8.98	アーウ 希少個体群保護林		平成2年設定。天然ヒノキ 天然生ヒノキが群生する原生林を保存し、遺伝資源を保護・管理する必要がある。	保	119	宮ツメタ谷ヒノキ遺伝資源希少個体群保護林	8.98	10 29
	120	名古屋アカマツ7林木遺伝資源保存林	4.59	アーエース 希少個体群保護林		平成2年設定。アカマツ 天然生の優良アカマツが群生する原生的林分を保存し、遺伝資源を保護・管理する必要がある。	保	120	位山苜安アカマツ遺伝資源希少個体群保護林	4.59	10 29
	121	名古屋スギ12林木遺伝資源保存林	10.68	アーウ 希少個体群保護林		平成4年設定。ムマイスギ 伏条性の強い当該地固有の稀少樹種である天然生のムマイスギ群生地を保存し遺伝資源を保護・管理する必要がある。	保	121	軽岡スギ遺伝資源希少個体群保護林	10.68	10 29
	122	名古屋ドロノキ13林木遺伝資源保存林	6.58	アーウ 希少個体群保護林		平成4年設定。ドロノキ 全国分布の最西端にあたることされるドロノキの群生地の保存し遺伝資源を保護・管理する必要がある。	保 国2特	122	大白川ドロノキ遺伝資源希少個体群保護林	6.58	10 29
	123	万波ブナ林等植物群落保護林	295.84	アーウ 希少個体群保護林		平成2年設定。ブナ 日本海側の冷温帯を代表するブナの極相がまとまって分布しており、貴重な動植物が分布する生息地を保護・管理する必要がある。	保 県自環	123	万波ブナ希少個体群保護林	295.84	10 29
	124	天生高層湿原植物群落保護林	7.15	アーウ 希少個体群保護林		平成5年設定。ホロムイソウ、ヒメジャクナゲ、ヤチスゲ 典型的な高層湿原が所在する。岐阜県内では、希少なホロムイソウ、ヒメジャクナゲ、ヤチスゲが分布する群落を保護・管理する必要がある。	保 県1特	124	天生希少個体群保護林	7.15	10 29
	125	山中山ミズバショウ植物群落保護林	1.99	アーエース 希少個体群保護林		平成4年設定。ミズバショウ 岐阜県内のミズバショウの南限であり、岐阜県の天然記念物「山中峠のミズバショウ群落」にも指定されており、保護・管理する必要がある。	保 県自環	125	山中山希少個体群保護林	1.99	10 29
	126	御岳オサバグサ植物群落保護林	18.39	アーウ 希少個体群保護林		平成4年設定。オサバグサ 中部地方南西限に分布するオサバグサの貴重群落を保護・管理する必要がある。	保 県1特	126	御岳希少個体群保護林	18.39	10 29
127	胡桃島ハイマツ等植物群落保護林	2.16	アーエ 廃止(他制度の活用、施業上の配慮)		平成4年設定。ハイマツ 平成27年度の確認では、主とする個体(ハイマツ)が消滅しているため施業上の配慮(自然維持タイプ)で対応。	保 県1特		廃止(施業上の配慮)自然維持タイプを検討			

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
宮・庄川	128	御岳特定地理等保護林	394.76	イーカークークーケ 他制度の活用、施業上の配慮	有	平成24年設定。御嶽山の山頂に近い火口カルデラ、噴気孔など。 木曾署(1159.29ha)、岐阜署(1567.56ha)、飛騨署(394.76ha)合計(3121.61ha)	保 県1・2特	128	御岳生物群集保護林	394.76	10 29
	129	乗鞍岳特定地理保護林	3,292.19	イーカークークーケ 他制度の活用、施業上の配慮	有	平成19年設定。保護林の下部はシラビソ、オオシラビソ、トウヒ、からなる亜高山帯針葉樹林を形成する。保護林上部は高山帯となりハイマツ群集を形成する群落を保護・管理する必要がある。植物種は114科795種が確認されている。隣接するのりくら郷土の森(614.86ha)、名古屋シラベ、アオモリドマツ、トウヒ、コメツガ11林遺(11.81ha)、中信署管内(1,605.84ha)と統合し(5,524.7ha)、一体的に保護・管理する必要がある。	保 国特1・2	129	乗鞍岳生物群集保護林	4,133.84	10 29
	130	名古屋シラベ、アオモリドマツ、トウヒ、コメツガ11林木遺伝資源保存林	11.81	アーク 希少個体群保護林	有	平成4年設定。シラビソ、オオシラビソ、トウヒコメツガの亜高山樹種を遺伝資源として保存。隣接の乗鞍岳特地(3,292.19ha)、のりくら郷土の森(614.86ha)中信署管内(1,605.84ha)と統合し(5,524.7ha)、一体的に保護・管理する必要がある。	保 国普				
	131	のりくら郷土の森	614.86	他制度の活用、施業上の配慮	有	平成18年設定。五色ヶ原地域のガイド等利用度が高い。隣接の乗鞍特地(3,292.19ha)、名古屋シラベ、アオモリドマツ、トウヒ、コメツガ11林遺(11.81ha)、中信署管内(1,605.84ha)と統合し(5,524.7ha)、一体的に保護・管理する必要がある。	保 国普				
宮・庄川 集計		宮・庄川森林計画区(水産森林管理区)	16,912.77							17,125.59	

計画区	番号	現在の保護林名	現在保護林面積	フローチャートによる検討	保護林隣接の有無 統合の可否	・設定年度 ・保護対象 ・再編案の理由	法令等	番号	新たな保護林名(案)	新たな保護林面積(案)	モニタリング実施間隔 直近の実施年度
木曽川	143	賤母ヒノキ等林木遺伝資源保存林	71.46	アール 希少個体群保護林	有可	平成5年再編。 木曽ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキ等からなる天然林を遺伝資源保存林へ近隣の同種の林相からなる個体群(55.58ha)と統合し合計(127.04ha)として一体的に保護・管理する必要がある。	保	143	賤母生物群集保護林 (保存地区)	127.04	10 31
	144	賤母ヒノキ等植物群落保護林	20.68	アール 希少個体群保護林	有可	平成5年林再編。 昭和37年賤母ヒノキ・モミ・ツガ天然林学術参考保護林に指定。近隣の同種の林相からなる個体群74.29ha)と統合し合計94.97ha)とし、隣接の賤母ヒノキ等林木遺伝資源(127.04ha)と合併し(222.01ha)として一体的に保護・管理する必要がある。ただし国道下部は保護林として維持ができないため(1.28ha)は解除し220.73ha)とする。	保		賤母生物群集保護林 (保全利用地区)	93.69	
	148	恵那山シラベ植物群落保護林	492.21	イカークーク 希少個体群保護林		平成5年再編。 亜高山帯針葉樹であるシラベ等の群落があり、一部林床にオサバグサが生育している。岐阜県の南限にあたり山地帯上部から亜高山帯の植生がまとまって生育している個体群を保護・管理する必要がある。	保 県3特	148	恵那山生物群集保護林	492.21	10 32
	149	小里コウヤマキ植物群落保護林	18.73	アール 希少個体群保護林		平成10年設定。 コウヤマキの生育する標高が低く、分布限界にある。モチツツジ、アカマツ、コナラの群集が成立しているため保護・管理する必要がある。	保	149	小里コウヤマキ希少個体群 保護林	18.73	10 32
	150	いわむら郷土の森	20.78	アール→サーシ 他制度の活用、施業上の配慮		平成5年再編。 岩村城趾周辺の地域、地元への土地売払い後は、廃止し施業上の配慮(森林空間利用タイプ)による管理とする。	保		廃止(施業上の配慮)森林 空間利用タイプへ変更	-	
木曽川 集計		木曽川森林計画区(東濃森林管理署)	623.86							731.67	
東三河	151	段戸モミ・ツガ植物群落保護林	14.32	アール 希少個体群保護林		平成5年再編。 太平洋側の代表的なモミ、ツガ、ブナ、ミズメ等が混生して高木層を形成する群落で、暖帯性の常緑広葉樹であるヒイラギ、シキモも生育している。愛知県ではまとまって分布する例は少なく希少な個体群を保護・管理する必要がある。	保 国定特1	151	段戸モミ・ツガ希少個体群 保護林	14.32	10 32
東三河 集計		東三河森林計画区(愛知森林管理事務所)	14.32							14.32	
総計			59,996.66							60,346.75	

## 1. 鹿島ヒノキ等林木遺伝資源保存林



ツキノワグマによる剥皮（ヒノキ）



保護林内林況

前回調査から大きな変化は確認されず、保存対象種であるヒノキの生育が確認された。ツキノワグマによると思われるヒノキ大径木への剥皮が複数確認された。現状では保護林の健全性が維持されているといえるが、今後の動向に注意が必要である。

## 2. 上高地ケショウヤナギ等林木遺伝資源保存林



ケショウヤナギ



保護林遠景

前回調査から大きな変化は確認されず、保存対象種であるケショウヤナギの成木の生育が確認された。プロット内にはケショウヤナギの実生が確認されなかったものの、保護林内の河原等において確認されており、保護林の健全性が維持されているといえる。

### 3. 梓川・霞沢植物群落保護林



保護林遠景



保護林内林況

前回調査と比較して、群落に大きな変化は確認されなかった。目立った病虫獣害も確認されず、保護林の健全性が維持されているといえる。

### 4. 大天井岳植物群落保護林



保護林遠景



保護林内林況

前回調査と比較して、群落に大きな変化は確認されなかった。目立った病虫獣害も確認されず、保護林の健全性が維持されているといえる。

### 5. 梓湖植物群落保護林



保護林内林況



シカまたはカモシカによる剥皮

前回調査と比較して、群落に大きな変化は確認されなかった。ニホンジカによる下層植生への食

害、立木への剥皮がやや目立つほか、踏査中にはイノシシの掘り返し跡が確認された。現状では保護林の健全性が維持されているといえるが、今後の動向に注意が必要である。

#### 6. 上高地ケショウヤナギ植物群落保護林



保護林内林況



ケショウヤナギの倒木

プロット内で保護対象種であるケショウヤナギ大径木の倒木が複数確認された。一方で、保護林内の河原等においてケショウヤナギの実生が確認されており、今後群落の更新が行われると考えられる。

#### 7. 針ノ木・爺ヶ岳特定地理等保護林



針ノ木岳



高山植物（シラネアオイ）

植物相調査の結果、希少な高山植物等が多数確認された。目立った病虫獣害は確認されなかったが、山小屋へのヒアリング結果によると、昨年度に爺ヶ岳周辺の稜線上でイノシシの食害が確認されており、今後の動向に注意が必要である。

#### 8. 槍ヶ岳・穂高特定地理等保護林



保護林概況



高山植物群落

植物相調査の結果、希少な高山植物等が多数確認された。目立った病虫獣害は確認されなかった。

#### 9. 五竜・鹿島槍ヶ岳特定地理等保護林



鹿島槍ヶ岳



ウルップソウ

植物相調査の結果、希少な高山植物等が多数確認された。目立った病虫獣害は確認されなかったが、山小屋へのヒアリング結果によると、本年度に五竜岳周辺の稜線上でニホンジカの群れが目撃されており、今後の動向に注意が必要である。

#### 10. 常念・蝶ヶ岳特定地理等保護林



保護林林況



高山植物群落

植物相調査の結果、希少な高山植物等が多数確認された。目立った病虫獣害は確認されなかったが、蝶ヶ岳への登山道の一部で登山者の踏圧を受けている地点が確認された。

平成29年度の保護林モニタリング調査の実施状況一覧

平成29年度 中部山岳森林計画区 保護林モニタリング現地調査

No.	森林計画区 (森林管理署)	保護林区分	保護林名	面積(ha)	プロットNo.		植物相	定点 写真	調査結果概要
					森林	高山			
1	中部山岳 (中信署)	生態系保護地域	北アルプス金木戸川・高瀬川源流部 森林生態系保護地域	3,647.06	4		○		調査中
					5				
					6				
2		林木遺伝資源保存林	風吹スギ林木遺伝資源保存林	11.26	1		○		調査中
3			鹿島ヒノキ等林木遺伝資源保存林	10.94	1		○	前回調査から大きな変化は確認されず、保護林の健全性が維持されている。ツキノフグマと思われる剥皮を確認。	
4			湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ等 林木遺伝資源保存林	63.76	1		○	調査中	
5			上高地ケショウヤナギ等 林木遺伝資源保存林	8.43	1		○		前回調査から大きな変化は確認されず、保護林の健全性が維持されている。
					2				
6		植物群落保護林	雨飾・天狗原山植物群落保護林	1,565.06	1		○		調査中
						2			
						5			
7			白馬岳高山植物群落保護林	1,281.19	1		○		調査中
						2			
						4			
8			白沢天狗山植物群落保護林	606.65	1		○		調査中
						3			
9			梓川・霞沢植物群落保護林	1,522.43	1		○		前回調査と比較して大きな変化は確認されず、保護林の健全性が維持されている。
					3				
	4								
		5							
10	大天井岳植物群落保護林	1,782.69	3		○		前回調査と比較して大きな変化は確認されず、自立した病虫獣害も確認されなかった。保護林の健全性が維持されている。		
11			鷲羽岳等高山植物群落保護林	1,844.97	1		○	調査中	
		3							
12	梓湖植物群落保護林	302.25	1		○		前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。ニホンジカによる下層植生への食害等が確認された。		
				3					
13	上高地ケショウヤナギ植物群落保護林	42.47	1		○		大径木の倒木が確認された一方で、実生が確認されており、今後の更新が考えられる。		
				2					
14	特定地理等保護林	針ノ木・翁ヶ岳特定地理等保護林	1,293.61			○	○	希少な高山植物等が多数確認。昨年度に翁ヶ岳周辺の稜線上でイノシシの食害が確認された。	
15		檜ヶ岳・穂高特定地理等保護林	3,154.89			○	○	希少な高山植物等が多数確認。	
16		硫黄岳特定地理等保護林	597.73			○	○	調査中	
17		五竜・鹿島槍ヶ岳特定地理等保護林	1,317.22			○	○	希少な高山植物等が多数確認。五竜岳の稜線上でニホンジカの群れが目撃されている。	
18		常念・蝶ヶ岳特定地理等保護林	2,223.57			○	○	希少な高山植物等が多数確認。蝶ヶ岳への登山道の一部で登山者の踏圧を受けている地点あり。	
19		乗鞍岳特定地理等保護林	1,605.84			○	○	調査中	
19保護林					24	3	19		

# 平成29年度 中部山岳森林計画区保護林モニタリング現地調査箇所

